

【趣旨】

京都府では、平成 23 年 3 月に里山と人との新たな関わりをめざした「由良川里山回廊構想」を策定しました。この構想では、地域の方々に里山の価値や魅力を再発見してもらい、その資源の活用方法を考えながら都市の人々等との交流等を行い、中丹の里山ファンの輪を広げて地域の活性化を進めることとしています。

中丹広域振興局では、この構想に基づき「由良川里山交流連携プロジェクト事業」を展開しており、その取組の一つとして、時代を越えて人・もの・情報が行き交う場であった古道と峠に注目し、大栗峠、宗峠、三郡山（大原越え）の調査を実施しました。

調査結果から、50 年ほど前は、里山の峠が実際に利用されていたことや、150 年以上前に設置された石碑や石仏など豊富な歴史資源の存在が再確認されました。

今回、この調査結果を冊子にまとめましたので、地域活性化の取り組みを考える資料として、また、後世へつなぐ歴史的資料として活用されることを期待します。



調査箇所

